



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

企業とアカデミアが ともに集う場を目指して

コロイドおよび界面化学は、基礎科学としての奥深さと、産業への直接的なつながりの双方をもつ分野です。洗浄、化粧品、塗料、食品、医薬、電池材料など、その活躍の場は広く、企業研究とアカデミアの研究が互いに刺激し合いながら発展してきた歴史があります。このような分野的特性こそが、コロイドおよび界面化学部会の大きな強みだと感じられます。

部会では、年1回の討論会をはじめ、各委員会の尽力により、これまで多様なセミナーやシンポジウムを継続的に開催してきました。特にコロナ禍以前には、企業研究者もこうした場に積極的に参加し、最新の学術知見に触れるだけでなく、立場を越えた率直な議論や人的交流が自然に生まれていました。「勉強しに行こう」、「著名な先生の講演を聞きに行こう」と、今よりも少し気軽に学会へ足を運んでいた時代があったように思います。また、企業研究者の間にも、自分たちの考えや成果が社外でも通用するのかを学会の場で試してみようとする意識が、今よりも自然にあったように思われます。

一方で、コロナ禍以後、状況は大きく

変化しました。日本経済の停滞に加え、働き方改革や業務効率化の流れの中で、企業研究者が外部の研究イベントへ参加するハードルは、以前よりも高くなっていくように感じられます。とりわけ海外の国際学会は、時間的にも費用的にも参加が難しいという現実があります。討論会には引き続き多くの方にご参加いただいているものの、企業からの発表は減少傾向にあり、セミナーやシンポジウムでは参加者集めに苦慮する場面も少なくありません。

また、企業の現場では、日々の業務を効率的に進めることが強く求められる中で、若い研究者・技術者が学術的な基礎をじっくり身につけたり、学問の進歩を継続的に学んだりする余裕を持ちにくくなっているようにも思われます。学問そのものへの興味や、自ら学びに出ていこうとする意欲が以前に比べて弱まりつつあるとすれば、それは個人の問題というより、私たちを取り巻く研究環境全体の課題として受け止めるべきではないでしょうか。

コロイドおよび界面化学は、アカデミアの先端的な知と、企業の現場が抱える

実課題とが会うことで、さらに豊かに発展できる分野です。だからこそ、部会活動を通じて、アカデミアと企業の双方にとって意義ある関係が改めて築かれ、闊達な議論と交流のある学会活動が広がっていくことが期待されます。

その意味でも、今年11月に沖縄で開催する Okinawa Colloids 2026 は、意義深い機会になると考えられます。海外の国際学会には参加したくてもなかなか行くことができない企業研究者にとって、日本国内にいながら国際学会の空気を体感できる貴重な場になるはずです。

まだ具体的な方策が十分に見えていないわけではありません。しかし、だからこそ、会員の皆様からの率直なご意見や積極的なご参加は、これまで以上に重要です。コロイドおよび界面化学の魅力は、学理と実学、人と人をつなぐところにあります。この魅力を次の世代へしっかりと手渡していくためにも、企業とアカデミアがともに集い、学び合い、刺激し合える部会活動が、これからさらに広がっていくことを願っています。

〔坂井隆也（花王株式会社）〕

© 2026 The Chemical Society of Japan